

## 学生の社会的活動報告

仁愛女子短期大学 生活科学学科・幼児教育学科

### 早稲田大学との学術交流会 in 福井駅前

平成 27 年 8 月 20 日 (木)

生活科学学科 生活情報専攻 2 回生 東 真由



8 月 20 日に、早稲田大学大学院地域マネジメントゼミと、仁愛女子短期大学澤崎ゼミで、ガレリア元町の「サンカク」というコワーキングスペースを会場に学術交流会を開催しました。まず、福井駅前の実態を知るべく、全員で歩いて散策しました。駅前には恐竜のモニュメントが設置され、数年後に開通する北陸新幹線関係の工事の真只中でした。散策してわかったことを踏まえて、

当日は (1) コワーキングスペースの活用と位置づけ、(2) 新幹線開通に向けた駅前空間のありかたとヒント、(3) 若者のにぎわいと駅前の関係、の 3 テーマで議論をしました。初対面なのでとても緊張していましたが、早稲田大学大学院の方々からフレンドリーに話して下さって、様々な意見が飛びかい、最終的にはよい議論をすることができたと思います。実はこのコワーキングスペース「サンカク」、正式オープン前ということでエアコンが付いていなくて、大変暑かったです！しかし、汗だくになりながら、環境的にも内容的にも「あつい」議論を交わし、結果的に中身の「熱い」議論へと進んだと思います。他大学との交流は大変貴重な経験となりました。



### まちフェスに参加!～マーケティングを学ぶ

平成 27 年 6 月～12 月

生活科学学科 生活情報専攻 2 回生 長谷川 瞳

私たちのゼミ (卒業研究) では、販売を通してマーケティング理論を学ぶことをテーマに選びました。商品は 1 年中使えるという理由からマグカップに決定し、マグカップ販売と共にネパールの復興支援をするために、売り上げをネパールへ寄付することにしました。マグカップには「W/U」というロゴを自分たち



でデザインして入れました。これは「With You = あなたといっしょに」という意味があり、一緒にネパール支援をしましょうという思いを込めました。

マグカップの販売のため、福井駅前で開催されていた「まちフェス」へ出店。6～8 月の計 3 回行いました。初めは物珍しさに足を止めてくださる方が多かったのですが、回数を増やすごとに売り上げが落ちていきました。次に、坂井市春江町にあるアルプラザアミのお買い物アイドル、アミ～ガスとのコラボ販売です。好きな子 1 人のサイン付きということもあり、毎回買ってくださる方もいらっしゃいました。結果として、付加価値があると売り上げが伸びることがわかりました。自分たちで企画した商品を販売していくことの難しさ面白さを学べる研究となりました。



## ふくい夢アート ハロウィンパレード

平成 27 年 10 月 25 日 (日)

生活科学学科 生活環境専攻 2 回生 岩田 菜見

福井でもこんなにハロウィンが楽しめると思ったのは去年、もっとたくさんの人に楽しんでほしいと思ったのが今年です。仁愛女子短期大学に入って私の福井に対する考えは大きく変わりました。ハロウィンはそれを一番思わせてくれた行事です。

毎年テーマに合わせて仮装するのが仁短の特徴です。可愛いからとか好きだからとかではなく



ちゃんとストーリーをつくって中身のある仮装にしています。今年は“なりきりモンスター”ということで、ドラキュラやポリスなどの定番的なものからアイドルやフクロウ、中にはオオカミのかぶり物をイチから作っている学生もいて、とてもユニークなハロウィンでした。街の人から「福井の方ですか？」と聞かれるほどでした。ハロウィンは小さな子供からお年寄りまでたくさんの方を笑顔にすることができるし、たくさんの人と触れ合うこともできる素敵なイベントだと思いました。今年はパレードがありました。楽しい太鼓の音に合わせて、ビックベンチとともに駅前を一周しました。写真を撮る人や建物の中から手を降ってくれる人、その顔は驚いていたり笑っていたりとても表情豊かでした。寒さ的には厳しいところもありましたが、それも忘れるほどでした。

私はもっといろんな人に福井の楽しみ方や良さを知ってもらいたいし、ふくい夢アートも沢山の人に見てもらいたいです。そして、福井駅前がより良いものになってほしいです。そのために学生の力も必要になると思うので後輩に期待をたくします。



## 50 年後マダムのおしゃれスナップ

平成 27 年 9 月 18 日 (土) ~ 27 日 (日)

生活科学学科 生活環境専攻 2 回生 野原 夏紀

この企画は、仁愛女子短期大学が開学 50 周年を迎え、これから私たちが歩いていく 50 年をテーマにしたスナップ写真展です。自分で手作りしたアクセサリや洋服を身につけ、じんたん生とじんたんの卒業生、そして教員の計 19 名を被写体に撮影しました。どのようなマダムになりたいか想像したり、将来なにをしたいかを考えたりして願いを込めた詩も書きました。私は、あえて不機嫌な表情で撮影しました。そのスナップに「笑顔で媚びる女性になりたくない。自分の感情を素直にあらわしたい。どんなときも偽らない強さを持って生きる。」という願いを込めて詩を書きました。また、このスナップ展は西武百貨店で行われていた NY マダムのスナップ展の開催と同じ時期に展示したのですが、NY マダムのスナップは、写真 1 枚 1 枚からそのマダムの個性とファッションへのこだわり、人生の深みそのものがすべて映し出されているように思いました。しかし自分のスナップ写真を見返すと、身につけているものや表情からは、マダムの写真から伝わる強さのようなものが感じられず、まだまだ未熟なのだと実感しました。私は、これから年齢を重ね、いろいろなものを吸収していくと思います。50 年後の私は素敵な NY マダムに少しでも近づきたいと思いました。また、このスナップ展を訪れた方々には、



自分の今後を見つめ直したり、ファッションとの関わり方について改めて考え直したりすることができるような機会になったのではないのでしょうか。

### 地域の方々とともに考えた 地域コミュニケーション活動

生活科学学科 生活環境専攻 2回生有志



廃校になった坂井市の旧竹田小学校を活用し、宿泊型の体験学習施設「竹田農山村交流センター」の愛称ネーミングと、ロゴマークデザインの依頼があり、生活環境専攻の2回生有志が取り組みました。10月初旬から12月にかけて地元住民の方々と4回にわたってワークショップを開催しながら、互いに持ちよった43案について検討を重ねました。その結果決定した愛称は「ちくちくぼんぼん」。竹田地区の「竹(ちく)」と子どもを意味する「ぼん」を反復させて組み合わせた造語です。フランス語の「bon」には「よい」という意味もあり、活気があふれ、心が躍るような響きが地域の方々にも喜ばれたようです。

またロゴマークは、ひらがなで竹田の「た」をモチーフに家紋のようにシンプルで印象に残るデザインが提案した18案の中から選定されました。決定した案には「+ (プラス)」や、「ぼんぼん」を表す二つの丸も構成されています。12月2日の記者発表にも参列し、仁短生として専門性を活かした地域活動を大いにアピールしました。



### 子育て応援団「すこやかふくい 2015」

平成27年11月28日(土)・29日(日)

幼児教育学科 1回生 八田 唯菜

私は「すこやかふくい2015」でインフォメーションの活動をさせていただきました。

インフォメーションでの仕事内容は、会場アナウンス、呼びかけ、迷子の呼び出し、車の移動、チラシ配り、来場者のカウントなど様々でした。アナウンスは笑顔で会場にいる全ての人に伝えることが大切で、緊急の時もあり、その場で冷静に対応するのが大変でした。

また、アナウンス以外も、先を見通して自ら動くことが大切であると感じました。

一緒にお仕事をさせていただいたスタッフの皆さんがとても優しく、皆さんのおかげで本当に楽しくお仕事をすることができました。

また、インフォメーションにいらっしゃるたくさんの方々とのコミュニケーションをとれて、本当にボランティアをしてよかったと思いました。

これからもいろんなボランティア活動に積極的に参加していき、人々との繋がりを大切にしていきたいです。



## じんあいこどものくに

平成27年10月17日(土) 9:30～16:00  
会場：仁愛女子短期大学 F号館

幼児教育学科では、毎年の大学祭においてこども向けのアトラクションを集めた「じんあいこどものくに」を催しています。この企画は、学生が主体となって子ども達が楽しめる遊ぶ場を企画・準備・実践する学びの機会として位置づけられています。ここでは取り組みの内容についてご紹介します。

### クラス別開催内容

- 1回生Aクラス「お祭りごっこ」
- 1回生Bクラス「巨大すごろく」
- 1回生Cクラス「アスレチック」
- 2回生Aクラス「劇：おおかみと7ひきのやぎ」
- 2回生Bクラス「バルーンアート」
- 2回生Cクラス「おぼけやしき」

### 学生の感想

○幼児教育学科 1回生 大橋 楓

私は今年初めて「じんあいこどものくに」を経験しました。私達のクラスは「お祭りごっこ」を企画しました。その中でも私は、お菓子釣りを担当し、クラスみんなで話し合い、協力して準備を進めました。当日は沢山の子ども達の楽しむ姿や、一生懸命活動する姿を見ることができ、大きな達成感を感じることができました。この経験によってクラスの仲が深まり、学校生活がより楽しくなったきっかけになったと思います。

○幼児教育学科 2回生 伊藤優里

アニメキャラクターをおぼけ屋敷風にし、懐中電灯を片手におぼけを探す子どもたちはイキイキして楽しそうでした。またお絵描きや折り紙などゆっくりできる空間を作りました。そこでは子どもたちとその様子を見守る保護者の姿があり、ほっこりしました。準備している時はこれで良いのかと不安でしたが、喜んでくれたのでとても嬉しかったです。



1回生Aクラス「お祭りごっこ」



1回生Bクラス「巨大すごろく」



1回生Cクラス「アスレチック」



2回生Aクラス「劇：おおかみと7ひきのやぎ」



2回生Bクラス「バルーンアート」



2回生Cクラス「おぼけやしき」